

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和2年度技術情報について

令和2年度技術情報第3号を発表したので送付します。

令和2年度技術情報第3号

令和2年7月1日  
徳島県

6月第6半旬の巡回調査において、早期水稲におけるいもち病(葉いもち)の発生が平年に比べて多く、一部の圃場では伝染力が強い急性型病斑も確認されました。

高松地方气象台が6月25日に発表した1か月予報では、気温は高く、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、イネいもち病の発生にやや助長的な気象条件であり、急性型病斑が確認された圃場では、今後、穂いもちや稲体のずり込みの発生が懸念されます。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：早期水稲

病害虫名：イネいもち病(穂いもち)

1.発生地域 県東部及び南部地域

2.発生時期 7月上旬～

3.発生状況

(1) 6月26日及び30日に、早期水稲18圃場を巡回調査した結果、葉いもちの発生圃場率が50.0%、発病度が3.5で、過去10年間で最も発生が多く、特に、県東部沿岸地域で発生が多かった(表1)。また、一部の圃場では、急性型病斑も確認された。

(2) 高松地方气象台が6月25日に発表した1か月予報では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

表1 2010年から2020年までの早期水稲における6月第6半旬の葉いもち発生推移

		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	平年
県内全域	調査圃場数	19	19	20	20	20	20	20	19	19	18	18	19.4
	発生圃場率	10.5	21.1	10.0	20.0	5.0	10.0	40.0	5.3	21.1	0	50.0	14.3
	平均発病度	0.1	1.6	0.8	0.4	0.1	0.2	2.3	0.1	0.5	0	3.5	0.6
東部沿岸*	調査圃場数	11	11	11	14	14	14	14	14	14	14	14	13.1
	発生圃場率	9.1	18.2	9.1	21.4	0	7.1	42.9	0.0	14.3	0	64.3	12.2
	平均発病度	0.1	1.8	1.4	0.4	0	0.1	3.1	0.0	0.5	0	4.5	0.7
南部*	調査圃場数	2	2	4	3	4	4	4	4	3	4	4	3.4
	発生圃場率	50.0	0	0	33.3	0	25.0	25.0	25.0	66.7	0	0	22.5
	平均発病度	0.5	0	0	1.0	0	0.3	0.5	0.3	1.0	0	0	0.4
北西部*	調査圃場数	6	6	5	3	2	2	2	1	2	-	-	3.2
	発生圃場率	0.0	33.3	20.0	0	50.0	0	50.0	0	0	-	-	17.0
	平均発病度	0.0	1.7	0.2	0	0.5	0	0.5	0	0	-	-	0.3

\* (東部沿岸) : 徳島市, 小松島市, 阿南市 (南部) : 美波町, 牟岐町, 海陽町 (北西部) : 吉野川市, 阿波市

#### 4. 病徴及び発生条件

##### (1) 病徴



急性型病斑  
楕円形  
暗緑色～ネズミ色  
周囲不明瞭  
※伝染力が強い

慢性型病斑  
紡錘形  
周縁部褐色  
中央部灰色

急性型病斑により生じた  
すり込み



穂いもち

穂いもち多発圃場

##### (2) 発生条件

低温日照不足で、降雨が多く稲体が乾きにくい場合、感染・発病が多い。  
気温が19～25℃、葉の濡れ時間が8～11時間以上で感染しやすい。

#### 5. 防除法等

- (1) 葉いもちの発生が多い場合、特に急性型病斑が認められる圃場では、穂いもちに移行する可能性が高いので薬剤防除を行う。
- (2) 穂いもちの防除適期は、出穂直前及び穂揃期である。農薬の使用基準を確認の上、粒剤の場合は、出穂10日前までに、液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。
- (3) 窒素質肥料を過用しないこと。特に、出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので、穂肥、実肥の施用時期・量に注意する。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。